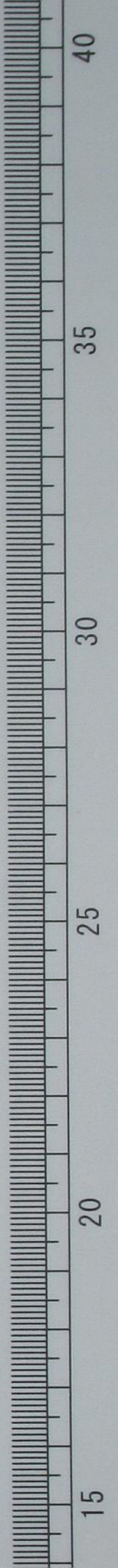




板垣伯奏議
一篇

柳田文庫
文庫11
A1944



板
桓
泊
奏
議
一
篇



文庫 11
A 1944



臣伏テ近日朝政ノ向フ所ヲ觀國勢ノ赴ク所ヲ察スルニ
誠ニ流涕大息ニ堪エザル者アリ以爲ラク今ニ及ンテ本
末ノ舛逆ヲ改メ首尾ノ衝決ヲ防カスハ其陵夷ノ極リ
必ス救フヘカラス言フ可ラザルノ事アラント是ヲ以
テ臣嘗テ陛下ノ爲メ國家ノ爲メ將ニ其諸弊ヲ開陳シテ
以テ微衷ノアル所ヲ尽サントス然ルニ當時言路壅塞聖
聰ニ達スルノ途ナシ況ンヤ臣カ之ヲ議スルニ於テ時ノ
未カ可ナラザルモノアリ故ニ且ツ遠巡トノ敢テ言ハス
待ツテアリ以テ今日ニ陛下ニ今ヤ新ニ榮爵ノ臣カ身ニ
及ッテアリ即臣妾ニ陛下ノ恩德ニ安シク默シテ以テ止ム
ヘキニアラズ於是乎伏テ上奏スル所アリ以テ乙夜ノ覽
ヲ乞ヒ臣カ霜昔ノ志ヲ達スルヲ希フト雖氏天恩ノ優渥

ナル臣カ素願ヲ聴シ給ハス臣モ亦陛下ノ寵命ニ對シ辭
避スルニ途ナク謹テ天恩ノ辱ヲ排ス退テ然レテ考フル
ニ其上奏ノ書タル草ニ一部ノ事一止マルニ過キス未タ
以テ臣カ平生ノ愚忠ヲ尽シ以テ陛下ノ聖慮ヲ回ラスニ
足ラサルヲ信ス故ニ重テ此ニ臣カ平生ノ愚忠ヲ尽シテ
敢テ忌諱ノアル所ヲ顧ミルニ違アラズ今ヤ我國外ハ條
約改正ノ時ニ際シ内ハ國會開設ノ期ニ臨ミ國家多端内
外多事ノ秋ナリ苟モ國ヲ憂ヒ君ニ忠ナラント欲スルノ
士ハ是時ニ於テ陛下ノ為メ社稷ノ為メ宜シク蹇々ノ節
ヲ効シ國家百年ノ大計ヲ定ム可シ是レ臣カ言路ノ壅塞
ヲ排シ以テ時勢ノ當否ヲ開陳セシトスル所以ナリ伏シ
テ願クハ陛下左右ノ言ニ惑フナク臣カ鄙言ヲ納レヨ

抑モ陛下臨御ノ初メ万機ヲ親ラセラル、ヤ其施政ノ向
ヲ処テ觀ルニ一ニ封建門閥ノ制ヲ破リ風教未治ノ俗ヲ
化セシトシ於是乎首トシテ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ天下
ノ諸侯ヲシテ其封土ヲ奉還セシメ四民ノ權限ヲ平等ニ
シ地券ヲ分與シテ所有ノ權利ヲ明ニシ兵制ヲ改正シテ
報國ノ義務ヲ尽サレノ制度文物一ニ歐米ノ典籍ヲ採擷
シ汲々乎十九世紀ノ氣運ニ後レサラシテ是レ勉メ夕
リ嗚呼陛下ガ銳意勵精其進取ノ途更張ノ跡之ヲ古今ニ
徴シテ誰カ隆盛ヲ比スルモノアラシヤ於是乎言路ノ
有司ハ宜シク陛下ノ聖意ヲ奉載シ献替匡翼シテ陛下ニ
竭ス所アル可シ明治八年陛下臣ヲ召シ臣等曾テ建ツル
処ノ民撰議院ノ議ヲ用ウ心ノ命アリ臣ノ聖意ヲ排スル

ヤ感激ノ至リニ耐ヘス亦夕入テ齋堂ノ班ヲ汚ス、至レ
リ然ルニ如何セシ当路ノ有司ハ言ヲ左右ニ托シ陛下ノ
睿旨ヲ遮蔽スルモノアリ是ヲ以テ臣遂ニ骸骨ヲ乞ヒ以
テ終養ノ恩ニ浴セントス是以降朝政ノ向ラズ頌ニ維
新改革ノ精神ヲ一変シ其有形ノ事物ノ如キハ一ニ欧米
ニ擬スルヲ急ニスルト雖氏政治上ノ施設ノ如キハ則
チ遠巡改進ノ運ヲ嫌フアルカ如シ是レ当路ノ有司ハ
進ニテ当初ノ聖意ヲ奉戴スル能ハス願ヒテ專制ノ古態
ニ追慕スルノ弊ナラヌヤ夫レ有司カ如此專制ノ古態
追慕スル所以ノモノ固ヨリ其本心ニハ非サルナリ唯夕
一夕ニ高貴ノ位ヲ 榮ノ優待ヲ濫リニスルヤ人
生私情 遠ニ富貴ノ為ニ淫セラレ安ヲ

貪リ天下ノ大計ヲ断スル氣力ナク言ヲ情實ニ假托シ
恬々自ラ喜フモノアルニ過キス夫レ苟モ國家ノ大
計ヲ忘ル 為ニ淫セラレ天下ノ大計ヲ忘ル
ナラスヤ其一夕ニ 命ヲ
ノ陋習ニ徂ル、從是以テ 夜ニカメテ專
長ヲシ之カ位置ヲ堅クセントス故ニ勢ニ遠ニ彼ノ十九
世紀ノ氣運ノ涵スル処ヲ悟ラヌ但改進ノ一辞ニ嫌惡セ
サルヲ得サルニ至レリ彼ノ維新改革ノ勢ニ乗シテ上下
一致ニテ其八年ニ於テ臣カ議ヲ用ヒ之カ成績ヲ遂クル
ヲ得セシメハ今日ノ如キハ既ニ代議政体ノ治ヲ施シテ
上下共ニ其慶ニ依リ燕々トシテ聖世ノ沢ニ浴スルヲ得
ヘシ惜哉明治八年以降ハ頌ニ維新ノ精神ヲ變更シ其進

歩ヲ駐メ却テ逡巡シテ政米日新ノ文運道義ヲ隱微ニ晰
ニシテ正理ヲ掩伏ニ扶スル也如キヲ摸セス唯其レ已レ
ニ背理乖理タル故制旧規ヲ温メテ之ヲ襲奪スルニ至ラ
ントハ豈ニ長大息ノ至リニ堪ヘサランヤ夫レ十九世紀
ノ氣運ニ枕シテ專制ノ故態ヲ維持セシトスルハ智者ト
魚氏亦夕冥ニ難シトスル処ニシテ蓋シ潮水ノ浸スヲ防
キ大氣ノ充ルヲ防クト一般ナリ而シテ夫ノ自由ノ大氣
ヲ沮ニテ文明ノ潮流ヲ遏メ專制ノ故態且ツ是等ニ於テ
ル旧套ヲ維持セシトスルヤ僅ニ威赫籠絡ノ二手段ニ依
リテ一時ノ安ヲ偷ムニ外ナキナリ今日朝政ノ向フ処ヲ
觀ルニ又夕此二手段ニ外ナラスト言ハサルヲ得サルモ
ノアリ

夫レ威赫籠絡ノ手段ヲ逞フセシトスル哉本ト是レ常義
ニ及スルノ道ヲ行フモノナレハ假令無氣力ノ人民ヲ赫
シ無智識ノ人民ヲ欺ムク共其実タル威力ト財貨トニ依
頼セサルヲ得サルナリ而シテ之ヲ行ハントスレハ則チ
中央集權ノ制ヲ定メ均一ノ政ヲ行ヒ一國ノ財貨ト智識
トヲ吸収シ中央都會ノ勢力ヲ強大ニシ地方人民ノ元氣
ヲ萎靡索沮シ苟モ志ヲ立テ事ヲ為サント欲スルモノア
レハ一ニ中央政府ニ從フニ非サレハ其志ヲ逞フシ其事
ヲ遂ルテ能ハス於是賤貨智識ヲ萃中央ニ集メ都府樓臺
ノ瓦甍ハ雲ニ聳ヘ日ニ耀ラモ村落到ル処荒涼ノ風景ナ
ラサルナク人ヲシテ其國ノ國タル時リ都府ニ止マリ都
府ノ外ニハ其國アルヲ見ズト言ハシムルニ至ラン然ラ

ハ則チ中央集権ノ弊状ニ到テ極レリト謂フヘシ朝政ノ
向フ処口國勢ノ趨ク処治者ノ爲ス処一之カ外ニ出テ
スンハ國勢ノ傾ク処也國ニ非レハ則チ擾乱相嗣カサレ
ヲ得サルナリ臣遠ク之ヲ政米ニ徴シ廣ク之ヲ古今ニ索
メス今日朝政ノ向フ処則チ当路ノ有司カ爲ス処ノ上ニ
就テ委曲之ヲ陳セン
抑モ中央集権ヲ尚ヒ其威力ヲ以テ防遏ノ方策ヲカムル
モノハ十九世紀ノ氣運ナレハ若シ十九世紀ノ氣運ヲ防
遏シ得スレバ当路有司ノ手段モ亦夕泡沫ニ敗セサレヲ
得サルナリ夫レ一片ノ紙ヲ以テ大氣ノ充ルヲ防キ一雙
ノ手ヲ以テ瀚水ノ流ヲ遏ムト云ヘハ人誰レカ其愚ヲ笑
ハサルモノアラシヤ今日十九世紀ノ氣運ナレモハ則

政米諸國文化發達ノ時ニシテ彼專抑壓ノ政治ヲ破リ
貴族僧侶ノ專横ヲ懲シテヨリ保護干渉ノ背理ヲ明ニシ
奴隸賣買ノ不義ヲ正フシ其政治社會ヨリ道德社會ヨリ
以テ生活社會ヲ通シテ改進ノ精神ヲ振作シ活潑ノ氣力
ヲ鼓舞シ得ルモノニシテ其光明ノ燦然タル猶ホ太陽ノ
一出ニテ妖魔ノ窟惹スルカ如ク彼ノ城狐社鼠ノ術ヲ逞
フセントスルモノ之ヲ忌憚セサルヲ得ントスルモ得可
ラサルナリ余ヤ我國当路ノ有司カ十九世紀ヲ悔惡スル
ヤ職トシテ是レニ由ルノ有司ハ則チ十九世紀ノ今日
ニ於ケルモ猶且フ專制ノ古態ニ追戀シ敢テ專矯ノ私ヲ
遂ケント欲スルモノナリ有司ノ新事物ニ進歩ヲ嫌フテ
之ヲ遏メント欲スルヤ遂ニ彼ノ頑陋無智ノ輩ニ啗ハスニ

金錢ヲ以テ濫リニ私恩ヲ賣リテ其歡心ヲ買ヒ以テ改
進ノ進路ニ横絶セシメントス心カ如キ也レリ夫レ臣カ
彼ノ頑陋無智ノ輩ト指スモノハ本是レ如何ナル者ソヤ
曾テ維新ノ後國家改進ノ政ヲ為ス日ニ當リ之ニ向テ不
平ノ志ヲ懷キ皇化ニ怨望シタル者ニシテ当路ノ有司ト
魚氏亦タ之カ頑陋ノ意見ヲ疎斥シタルニ非スヤ日新事
物ノ進入ニテ有司自ラカ我我ヲ恣ニ為ス於テ不便ヲ
生スルニ至レハ即却テ又タ此輩ヲ籠絡シ此輩ヲ利用シ
テ彼ノ十九世紀ノ潮流大氣ヲ防遏セシト企圖スルニ至
リタルハ其心モ亦タ寤メリト謂フヘシ所謂無智頑陋ノ
輩モ亦タ天旋リ地轉シ文明ノ新社会起ルノ時ニ至レハ
一身ヲ容ルルノ所ナキヲ竟知シ以テ猥リニ有司ノ籠絡

ニ扭シ金錢ノ賂ヲ寄貨トシテ甘ンシテ之レカ爪牙トナ
ルニ至レリ如以卑劣手段ヲ取ラサルヲ得サルニ至ルハ
豈ニ止ムヲ得ンヤ草ニ一人ノ私ヲ遂セントスルニ過キガ
ルナリ夫レ十九世紀ノ氣運ノ進入スルヤ猶ホ潮水ノ浸
スカ如ク大氣ノ充ワルカ如ク片紙隻手ノ能ク防遏シ得
ヘキニ非レハ一方ニ防ケハ一方ニ溢レ一部ニ過ムレハ
一部ニ潰ヘ彌ヨ出テ、弥ヨ不可ナルニ至ル豈ニ其全局
ヲ顧ルニ暇アラシヤ是レ有司ノ心ノ濫リニ私恩ヲ売リ
金錢ノ利ヲ啗ハシテ世ノ頑固者ヲ籠絡スル所以ナリ
夫レ民ヲ安シ國ヲ保フヤ為ニ疑テ百揆ノ事務ヲ生セ
サレヲ得サルナリ其百揆ノ事務ヲ理スルカ為メニハ從
テ百僚ノ官職ヲ設クルノ止ムヲ得サルニ至ルモノナリ

故ニ事務ノ為ニ人ヲ用ユルハ固ヨリ当然ニシテ誰カ之
ヲ非ナリト云ハシヤ人ノ為メニ官職ヲ設ケ官職ノ為メ
ニ事務ヲ設クルト云フ如キニ至テハ其弊害ノアル処又
言フヘカラサルナリ抑モ我國現在ノ如キハ人ノ為メ官
ヲ設ケ官ノ為メニ事務ヲ設クルノ類アルト多シ是レ臣
カ徃々実見スル処ニシテ此ノ如キハ何ニ因由シテ然ル
乎蓋シ我國ノ有司カ世界ノ氣運ニシテ獨リ專恣ノ慾ヲ
逞フスルヤ人心大ニ離散シ民望常ニ乖背シ己レカ地位
ヲシテ日ニ安寧ナラサラシムルヲ知ル故ニ苟モ我ニ声
援ヲナシ我ニ附加ヲ為スモノアレハ何人ヲ問ハズ近テ
以テ己レカ党與トナシ相賣録シテ之カ地位ヲ持セン
ト欲スルトハ又止ムヲ得サル処ナリ抑モ人情ノ常

トシテ其利ニ因テ相集ルモノ又道義ノ如何ヲ顧ミス一
日モ其利ノ由テ生スルノ地位ヲ保タシメントシ其利ト
スル処ヲ取リ其害ト私稱スル所ヲ排シ終始相結托シ但
利害ノアラシ極リハ相共同スルトハ人情ノ免レサル処
ナリ若シ夫レ正人君子ノ道義ヲ以テ相聚ルヤ則チ否ラ
スシテ利ノ為ニ其志ヲ回サス害ノ為ニ其氣ヲ恠レシメ
ス唯テ道ノ存スル処ニ義ノアル処ニ是レ行ヒ是レ施ス
又得喪ノ如何ヲ顧サルヘシ如此モノハ天下實ニ寥寥晨
星ノ如ク利害ヲ以テ務トナシ温飽ヲ以テ志トナシ又道
義ノ如何ヲ顧ミサルハ福トタル天下庸人ノ止ムヲ得サ
ル情態ナリ我國疲弊凋殘ノ久シキ人心多ク腐敗ニ徒ラ
ニ財貨ノ多少ヲ問フテ正邪ノ当否ヲ論セス唯利是レ攬

セント欲スルハ進日ヨリ甚シキハ十ニ中央集権ノ甚シ
キ地方又遺財遺利ヲ人民自ラ計ル能ク休養スル処十
ニト於是テ口ヲ糊シ生ヲ營セシト欲スル者ハ任官ヲ以
テ第一ノ捷徑ト爲ス我國有司ハ之ヲ利用シ故ニ之ニ乘
シテ無用ノ官ヲ設ケ羞耻ナキノ人ヲ籠絡シテ以テ已レ
ノ利害ニ管セシノシトスルニ至リ飾行相結托シテ日一
日ノ安ヲ偷マント欲スルノ手段ニ出ツルニ外ナラサル
ナリ夫レ人ノ爲ニ官職ヲ設クルハ蓋シ爲ス下ヲ要セサ
ルノ事ヲモ之ヲ爲シ務ムル下ヲ要セサルノ務メヲモ之
ヲ務メサルヲ得サルノ謂ハレナレハ從テ爲ニ費途ノ
繁多ヲ醸シ事務ノ煩冗ヲ生セサルヲ得サルナリ事務煩
冗ニシテ費途繁多ナレハ是レカ困苦スル処独リ其民ニ

取セシメサルヲ得ス嗚呼限リアルノ事務ヲ以テ限リア
ラサルノ求ニ應セシトスル下復々實ニ難シト云フヘシ
是ヲ以テ一人ヲシテ之ヲ処理セシムル猶ホ余リアル事
ト雖ト官ノ多キカ爲メニ教人ノ間ヲ經過セサルヲ得ス
一局之ヲ裁決シテ其宜シキヲ得ル下モ局ノ多キカ爲
メニ教局ニ交渉セサルヲ得ス案牘頭ヲ埋メ事務ハ日々
ニ凝滞シ費途八月ニ泥濘ス人民ノ困苦又告クルニ処十
カルヘシ抑モ政簡ナレハ之ヲ知り易ク知り易ケレハ親
シ易シトハ古人ノ常ニ戒ムル処ナリ今日ノ有司ト金氏
豈ニ此ノ如キ觀易キノ道理ヲ知ラサルモノナランヤ其
之ヲ知ルモ猶ホ且ク之ヲ爲ス下甘シ不人所以ノモノハ
何ソヤ蓋シ十九世紀ノ氣運ニ對シ專制ノ故態ヲ維持セ

ントスルノ止ムヲ得サルモノアリハナリ其日々人心
ヲ離レシムルノ媒トナリ月々ニ財政ヲ困ムルノ因トナ
ルモ之ヲ顧ルニ暇ナク一時ノ利害ヲ固守シテ百世ノ大
計ヲ誤ラントス夫レ吏ハ民之役非所以役民ナリ人ノ為
メニ官ヲ作り官ノ為メニ務メテ設ケ以テ民ヲ没シ賊ヲ
糜スルノ政ヲ見ントス是レ当路有司ノ唯タ人ヲシテ望
ヲ官途ニ屬セシメ以テ其籠絡ノ手段ヲ行フ所以ナリ
我有司ハ猶ホ此ニ止ラス天下ノ人民ヲシテ不羈独立ノ
志氣ヲ長シ思想ノ發達スルヲ患ヒ專ラ官立ノ学校ヲ興
隆シテ民間ノ教育ヲ沮喪セシメ畫一ノ学校ヲ敷キ人ノ
心智ヲ拘束シ夫ノ不羈ノ氣独立ノ志ヲ消殺セシトスル
ニ至リテハ其旨深クシテ其罪モ亦タ大ナリト云フべシ

夫レ國ハ各異ノ才能ヲ集メ各殊ノ智徳ヲ合スルヲ以テ
能ク文化ノ義ヲ呈スルヲ得ルモノトス蓋シ人村ノ天賦
ハ各異各殊ニシテ各其長スル処ヲ一様ニセサルモノナ
レハ真ニ人村ノ天賦ヲ成セシト欲スルモノハ之ヲ一器
ニ入ルヘカラサルヤ明ナリ且ツ政府本然ノ職務ナルモ
ノニ就テ之ヲ謂ヘハ人々同等自由ノ抵牾ヲ防止スルモ
ノナレハ人間教育ノ下ノ如キハ固ヨリ之ニ干与スヘキ
モノニアラサルナリ政府ニシテ敢テ之ニ干渉セント欲
スル乎是レ人性ノ心智發達ノ自由ヲ奪フニ齊シケレハ
則チ其罪タル彰々トシテ掩フヘカラサルモノナリ而ル
ニ若シ政府タルモリニシテ人民不羈ノ氣独立ノ志ヲ長
シ思想ノ發達スルヲ患ヒテ其教育ニ干渉シ之カ 芽ヲ

萎縮セトスルカ如キアラハ其レ之ヲ何トカ云ハンヤ
今ヤ我國有司ハ夫ノ本然ノ理ヲ冒カシ之ヲ断行シテ
顧ミサル所以ノモ、ハ思フニ十九世紀ノ氣運ニ抵抗シ
テ專制ノ基礎ヲ固メント欲スルニハ智識ヲ長シ氣力ヲ
強クスルハ之ヲ欺キ之ヲ嚇スル平生ノ慣手段ヲ行フニ
不利ナルモノナレハ寧ロ國家ノ害ヲ遺スモ眼前人智ノ
發達ヲ妨ントスルニ外ナラス豈ニ本然ノ理ヲ思考スル
ニ暇アラシヤ則チ財ヲ糜シ思フ勞シ自ラ苦シテ以テ如
此ノ過ヲ故造セサルヲ得サルナリ是レ教育上ニ於当路
有司カ威赫籠絡ノ手段ヲ見ル所以ナリ
如此十九世紀ノ氣運ニ向ヒ頻リシ之ヲ妨過セトス更
ニ銳意ニテ農工商ノ如キ民間ノ利業ニ干涉スルニ至レ

リ夫レ農工商ノ利業タル政府ノ毎ニ之ニ向ツテ干涉ス
ル処アルヘカラサルナリ固ヨリ言フヲ待タサルナリ古
ヨリ政府之ニ干涉スレハ却テ良効ヲ得ルナリ能ハサル而
已ナラス其自治發達ノ源ヲ塞クモノ比々皆ナリ蓋シ
干涉ニ二種ノ別アリテ一ヲ保護ト云ヒ一ヲ制限ト云フ
ナリ保護干涉トハ一人ノ業若クハ一部ノ人民ニ向ツテ
政府之カ特別ノ保護ヲ加ヘ為メニ故造シタル利益ヲ偏
与シテ他ノ利益ヲ独立セシメサル是ナリ蓋シ民財ヲ奪
フテ一人ノ業ヲ特愛スルニハ政府ノ本分ニアラサルナ
リ却テ一般ノ商勢工業ヲ阻礙シテ其始メニ於テ稍マ一
所ノ利益ヲ見トスルモ自ラ全局ノ損害ヲ醸成スルニ
至ルナリ又制限ノ干涉ノ如キハ其不当ナル是ヨリモ甚シ

トトス古今ニ論ナク東西ノ問ハス農工商ニ制限ヲ置キ
自由ニ之ヲ經營スル道ヲ防遏スルハ即チ人ノ行為ノ
自由ヲ犯スモノニシテ是ヲ政府ノ本分ニ通ハサルノミ
ナラス徒テ政府ノ職務ニ背反スト謂フヘキナリ夫レ政
府ノ職務タル人ヲシテ官能作用ノ自由ヲ得セシメ其作
用ノ自由ト万人同等ノ自由ト相抵牾セシメサルニアリ
然ルニ之ニ制限ヲ置キ之ヲ拘束スルハ自由ヲ全フスル
不能ハサルソミナラス奪テ而テ之ヲ掠ムルト云フノミ
人民ノ自由ヲ奪掠スルヲ防制スルノ政府ニシテ却テ
自ラ奪掠ノ所行ヲ為スト云フハ其罪タル最モ大ナリ西
哲言ヘルトアリ人ヲ殺シテ物ヲ盗ミ人ヲ奴トナシ及ヒ
制限ヲ設ケテ高工商ヲ束縛スル是レ皆政府ノ犯罪ニシ

テ其分限ニ大小輕重ノ差アルモ其種類ニ於テハ異同ア
ルトナシト蓋シ一ハ全ク自由ノ元氣ヲ損シ一ハ全ク自
由ノ成績ヲ破ル犯罪ノ名ニ於テ何ノ免ルトコアラシ
ヤ今日我國有司カ農工商ニ對スル政策ヲ見ルニ或ハ一
種ノ人民ヲ特愛シテ保護ノ金ヲ与フルアリ或ハ認許ノ
規約ヲ設ケテ自由ニ自ラ經營スルヲ防遏スルアリ其為
ス処一ニ干涉政策ヲ是レ極メサルハ十三抑干涉ノ政策
ヲ行フヤ或ハ不振ノ農業ヲ興サンカ為メ之ヲ保護スト
云フモノアリ或ハ是ニ偏厚ニシテ彼ニ偏薄ナルカ故ニ
其偏倚ナルモノヲ拒カントシテ之ヲ制限スト云フ者ア
リ齊ニク其干涉政策ヲ行フモノナシ共ニ其之ヲ行
フ旨タル偏ヘニ國利益ヲ増進セント企圖スルニ外ナ

ラス亦已ヲ得サルモノアリト云フ可シ然ルニ我國有司
カ為ス所ノ干渉政策ノ如キハ其名ハ干渉政策ナリト云
フト魚氏其完全ク異ナリ是レ其國ヲ利シ民ヲ益スル所
以ノ意ニハ出ズシテ一ニ已ヲ利スルノ所為ニ出ル而已
故ニ人民独立ノ志氣ヲ挫折シ卑怯ニテ政府ニ依頼セ
ムルノ心ヲ長セシメ以テ永ク有司ノ利害ニ伴ハシメ
トス豈如安ノ有司ヲシテ徒ニ一日ノ運命ヲ長セシトス
ルノ私意ヲ逞フスヘケンヤ夫レ一般商況ノ振作ヲ名ト
シテ一ニ已利害ノアル所ヲ逞フセシトシ保護ヲ以テ偏愛
トナシ干渉ヲ以テ威福トナシ不假設國利民益ヲ増進スル
ノ正業ヲ起スモノアルモ其思想稍々政府ノ指囑ニ反對
ト見做ス所ハ同一人民ノ之ヲ經營スルモノニ對シ却テ

已レニ通同スル者ヲシテ真正業者ノ衰滅ヲ促サシメ或
ハ賂遺多ケレハ勉メテ之ヲ愛シ賂遺少ケレハ勉メテ之
ヲ憎ムモノアリ或ハ便嬖能ク論ハ起業ノ資ヲ与ヘ或
ハ尙ニ不急ノ土木ヲ興ニ或ハ無用ノ工事を營ムガ學口
一般ノ高況ヲ妨ケ公正ノ事業ヲ空クニ國ヲ損シ民ヲ困
ムルモ唯自ノ便ヲ期スルカ如シ彼ノ制限認許ノ規約ヲ
設ケテ民間ノ事業ニ干渉シ人民ヲシテ自由ニ經營スル
ヲ得セシメス其慮リ或ハ人民ヲシテ自由ニ事業ヲ經營
セシムルハ自治ノ力ヲ養ヒ独立ノ氣ヲ長シ自己ノ門
戸ニ媚ヲ呈セサルニ依レハナリ故ニ自己ニ媚フル者ハ
之ヲ認許シテ自己ニ恃テ者ハ之ヲ認許セズ民間ノ經營
一ニ官府ニ依頼シ官吏ニ諂諛シ賂遺ヲ行ヒ諂佞ヲ能ク

スルニアラサレハ能ハス。ト云フ其卑怯ノ心。屈ノ情ヲ
生セシメ以テ其政策ヲ得タリトナシ。今日ノ政策ヲ以テ
考フレハ徹頭徹尾独立自治ノ気力ヲ消滅スルヲ以テ是
レ事トスルモノナリ。如此ハ抑モ何ノ故ニシテ然ル乎。蓋
シ十九世紀ノ氣運ヲ悼リ其進化ニ抵抗シテ天下ト共ニ
ヲ俱ニセス自ラ計畫シテ以テ自ラ安ヲ偷ム所以ナリ
昔仏國ノ宰相コルベルト曾テ其國ノ富豪ヲ會シ。商業ノ
隆興スル道ヲ問フヤ。皆ナシニ應シテ唯ニ我ハラシテ放
任セシメヨト云フニ。アラスヤ又商業工藝ノ如キハ。治ニ
盛ニシテ乱ニ衰フルハ自然ノ理ナリト雖モ。十七百年代
仏國革命ノ大乱アルニ及シテ。歐洲ノ商業工藝ハ却テ大
ニ伸張セリト云フ夫レ乱ニハ必ス衰ヘテ治ニハ必ス盛

ナルカ如キモ。ニシテ仏國革命ノ乱ノ如キ慘烈至ラサ
ルナキノ時ニ於テ歟ノ如キ常態ニ及シタル結果ヲ見ル
モノハ果シテ何ノ理アラワテ然ル乎。蓋シ此大乱ニ依リ歐
州古來干涉政策ヲ刷新シ各自々治ノ気力ヲ發揮スル
ヲ得タルハナリ。是ヲ以テ其乱ニ因リ衰フヘキノ商業ニ
シテ却テ乱ヲ以テ盛ナラシムルヲ得タル雜然偶々其
時ヲ察シ勢ヲ詳カニシ以テ之ニ乘スルアレハ干涉ノ政
策モ亦一時ノ高況ヲ振作スルヲアレ氏其干涉スヘキモ
ノト其干涉スヘカラサルモノトヲ判別スルハ甚々難事
ニシテ其之シカ干涉シテ其当ヲ失セシヨリ寧ロ干涉セ
ズシテ自然ニ附スルヲ勝レルニ如カサレナリ。我國四通
八達ノ形象ヲ以テ沃野膏田ノ天府ニ擬リ心匠美術アル

人衆ヲ有シテ而ノ大ニ之レカ天縱ノ資ヲ發揚スルヲ得
スト云フ所以ノモトハ蓋ニ慨歎セザルヘケシメ是レモ
亦正々タル諸有司カ專恣ノ欲ヲ逞フセシト欲シテ籠絡
手段ヲ利用スルカ故ノ是也路有司其干涉政策ニ拠リ
籠絡威嚇ノ手段ヲ行フ所以ナリ
嗚呼陛下ノ有司カ十九世紀ノ氣運ニ抗シ專制ノ政府ヲ
支持シ以テ一時ノ人心ヲ籠絡シ目前ノ逸豫ヲ罔ラシト
欲ス其方策權謀勉メタリト云フヘシ然レ氏土壤ノ廣キ
人衆ノ多キ久シキニ弥リ長キヲ経ルニ至ラハ有司ノ手
段モ亦支吾ナキヲ保スル能ハス其籠絡ノ範圍ヲ濶洩セ
シトス故ニ遂ニ威嚇ノ手段ヲ行フテ人心ヲ畏懼セシメ
サルヲ得サルニ至レリ夫レ人ノ性情タル権力ヲ濫用シ

テ天稟ノ自由ヲ妨害シ社会ノ公安ヲ擾乱スル者其跡ヲ
絶ワヘカラス道心惟レ微ニシテ和家懲罰ヲ設クルノ機
斯ニ伏スル所以ナリ
是レヲ以テ國家法ヲ立テ政ヲ行フモノハ其権力ノ濫用
ヲ防テ各人ノ自由ヲ護リ常ニ和家政務ノ秩序ヲ正フニ
テ社会ノ公安ヲ保タサルヘカラス於是乎律例ヲ布敷シ
警戒保安ノ必要ヲ見ルニ至ル所以ナリ夫レ警戒ノ設ケ
アル其因由已ニ此ノ如クナレハ以テ其職務ノ如キ権力
自然ノ濫用ヲ制シ社会萬般ノ危害ヲ防キテ各人ノ自由
ヲ保護シ一般ノ公譽ヲ維持セシムヘキモノナリ然レ氏
警戒ノ事タル時ニ至ル一人ノ自由ヲ箝束縛シテ以
テ頗ル人心ヲ激動スルノ下アルハ是レ却テ警戒ノ主意

保護セシカ爲ニ國家綱紀ノ紊乱ヲ警戒スルト云フニ
過キサルノミ是レヲ以テ警察吏ノ如キハ人民ニ直接
スルモノナレハ温和信愛人心ヲシテ依倚ノ念アラシメ
サルヘカラス即チ歐米文明國ノ警察吏ノ如キハ其一般
民ニ接スル恭謙丁寧固ヨリ威赫ノ舉動アルトシ今ヤ
我國警察ノ制度ヲ見ルニ近來大ニ之ヲ擴張シ人ヲシテ
其威嚴ヲ望ミ仰テ而シテ近フクヘカラス觀想ヲ生セ
シムルノミナラズ又警察官ヲシテ兵器ヲ佩帶シテ以テ
戒飾スル所アルニ至レリ抑モ兵器十ルモノハ固ヨリ人
ヲ殺スヲ以テ本性ト爲ス者ト云フ又莫ニ形ノ有ル者ナ
リ其之ヲ施用スルノ如何ハ之ニ抵抗スルモノ、行為ノ
如何ニ準シ半ハ自己ヲ防キ半ハ籍束ヲ行フノ止ムヲ得

サルニ出ルモノナリ是レ歐洲各國考ク其例アル所ニシ
テ我國ノ如キハ帶劍心得十ルモノアリテ之ヲ規制スト
云フト雖氏審カニ考フレハ威赫ノ手段ト云ハサルヲ得
サルモノアリ蓋シ抵抗者ノ行為ニ準シテ之ヲ施行スト
云フ時ハ縱令ニ帶劍条規アリト云フ其勢豫メ之カ使用
ニ制限ヲ立ツルトハ能ハサルニ屬スヘシ既ニ制限ヲ立
ツルト能ハストスルカ之レヲ使用スルハ即チ之ヲ使用
スル者ノ適意ニ任スト云ハサルヘカラス夫レ情緒ノ感
動強ク厚ケレハ理性ノ思慮ハ強ク薄カラサルヲ得ヤル
トハ心理ノ是則チ抵抗ノ物体強ク強ケレハ及動ノ勢
力強ク強キトハ物理ノ是則チ人氏ヲ籍束セシト
シテ却テ抵抗ヲ受ケタリトスル乎是時ニ當リ之ヲ惡ム

情ト抵抗ヲ怒ルノ情トハ莫ニ非常ノ感動ヲ人心ニ激發
スヘシ其之レカ旺盛ノ極ハ遂ニ理性ニ靜定ナリ思慮ヲ
動搖シテ公正ノ判断ヲ乱ルニ至ルヘシ其抵抗強キ
ニ際スレハ之レカ反動ノ作用ハ將ニ大ニ无進セサレハ
止マサラントスヘシ是時能ク公正ナル举措ヲ取ラシ
トスルハ思慮平明ナル君子ノ人ト雖氏甚々難シスル可
ナリ況ンヤ九倍ヲヤ何ソ適當ノ措置ヲ望ムヘケンヤ殊
ニ我國警吏ノ如キハ概テ封建武士ノ余ニ出タルモノナ
レハ武断ノ教養濫殺ノ習俗其多年ニ於テ浸漸シテ今日
ト岳氏尚ホ脱却セサルモノアリ之レヲ如何ニソ区々帶
劔ノ一条規ヲ以テ之レカ使用ノ適當ヲ望ムヘキモノ十
ラシヤ是ヲ以テ欧米如今ノ警吏ト目ヲ同フシテ論セン

トス又ヨ難カラヌヤ今ヤ人ヲ殺スノ器ヲ以テ之ヲ適當
ニ使用シ能ハサルノ人々授リテ其ノ使用ニ任セントハ
天下復々之レヨリ危險ナルモノアラニ夫レ武士刀ヲ帶
ヒテ横行スル封建ノ世ヲ回顧セハ如何ソヤ 予其人心
ニ畏懼ノ念ヲ懷カシノタルヤ知ルヘカラズ其三民ヲ今
日ノ陋態ノ如キモ又莫ニ封建ノ 年畏懼ノ遺風ト云ハ
サルヲ得サルナリ斯ノ如ク封建殺ノ習俗仍ホ存スルモ
ノヲシテ刀劍ヲ興ヘテ以テ斯ノ如ク封建卑屈ノ氣凡未
ク脱セサル人民ヲ待タシメテ之ヲ威嚇ノ手段ト云フト
甚モ抑モ亦ト甚ト云フハシ嗚呼瘡刀ノ令一ヲヒ出テ
ヨリ武門威嚇ノ習俗漸クニ滅縮シ生民蘇生ノ思ヲ為シ
タルモ今日又帶劔ノ警吏ヲ見ルニ至ラシトハ其刀劍ヲ

濫用セズト雖モ誰カ之レニ 然タルモノアラシヤ而モ
之ヲ濫用シテ良民馳逐ノ用ニ供シタル下ハ時々聞ク所
ナルヲ何人カ怡寧ノ思ヲ為シテ安シズルヲ得ンヤ且
ツ今日ト雖モ其言語ノ如キハ依然昔日武士ガ其三民ニ
向フテ用ヒタル所ノモノヲ襲シテ故ムルナシ夫レ
昔日ノ武士ハ國民ヲシテ責任ト為シ他ノ三民ヲ奴隸視
シタルモノナリ故ニ言語ノ如キモ從テ侮慢ヲ為スニ
至ルト云フ可シ而ルニ今日之ヲ故ナズシテ襲用セシ
所以ノモノハ寧口人民ヲ奴隸視スト云ハザルヲ得サル
ナリ之ヲ謂テ威嚇ノ手段トナスモ何ノ不可アラシヤ
ノ封建ノ昔日ト雖モ其罪人ヲ逮捕スルヤ刀及テ用ヒス
其國民タル武士ニ向フヤ決シテ侮慢ノ言語ヲ用ヒサル

ナリ是レモ亦國民ヲ重シニ保護ニ意ヲ用ヒタルモノア
レハナリ然ルニ今日之ヲ用ヒテ改メス保安ノ手段ニ出
ツルト云フモ誰レカ不快ヲ感セスレテ之ヲ信スルモノ
アラシヤ蓋シ警察ノ今日ニ行フ所ノモノハ寧口保安ノ
意アルヨリモ苛暴鍛鍊犯罪ヲ羅織スト謂ハサルヲ得サ
ルモノハ是レアラサルカ少ク歎跡ノ疑フヘキモノア
レハ直ニ事ヲ外件ニ假托シ之ヲ捕ヘ之ヲ縛シ甚シキハ
数年之ヲ拘囚スルカ如キノ事ハアラサルカ其既ニ拷訊
ヲ廢スルノ今日ニ當テ緊縛政打ニ其痛苦ニ堪ヘスレテ
不実ノ白状ヲナシムルカ如キノ事ハアラサル乎其人
民ヲ拘囚ニ寒夜雪中ニ立タシメ為シ死ニ至リタルノ
事ハアラサル乎其人氏ノ公會ノ場ニ於テ劍ヲ拔キ及テ

舞ハシタルノ事アラサル乎其良民ヲ暴ニ傷殺シ為ニ許
訟ニ至リタルノ事ハアラサル乎其出ルヤ之ビカ車ヲ衛
ラシメ其入ルヤ之レカ門ヲ守ラシメ一國ノ治安ヲ口ニ
籍々テ一身ノ危害ヲ豫防シ戦ニ競ニ其身ヲ置ク戦時ニ
アルカ如ク乱場ニ在ルカ如ク天下ノ衆民ヲ敵視スルカ
如キノ事ハアラサル乎我カ警吏ノ如キモ即チ同胞兄弟
ナレハ僅ニ其被服ヲ異ニスルカ為メノ故ニ豈同胞ノ人
民ヲ敵視スルモノナランヤ而ルモ唯一時ノ安ヲ偷ニ逸
ヲ遂ケント欲スルカ為メノ故ニ之ヲ驅逐シテ天下ト讐
隙ノ念ヲ生シ敵視ノ氣ヲ起サシムルノ實ナキ乎抑モ人
民ナルモノハ國家ヲ維持スルノ大本ニシテ冬ク陛下ノ
赤子ニアラサルハ十ニ是ヲ保安ニ是ヲ愛撫スルヤ言語

ノ微ト蚤モ根ニ侮慢ニ涉リテ其不快ヲ招カシムヘカ
ス况ニヤ苛索鍛鍊罪科ヲ羅織スルカ如キノ莫アルヘケ
ンヤ今ヤ当路ノ有司彼ノ警吏ヲシテカヲ帯ヒ言語ヲ殊
ニスルカ如キノヲ以テ之レ其正ヲ得タリト思フニハ
アラサル可シ何トナレハ外國人居留ノ地ニ於テハ警吏
タルモノ身外果ニテ一劍ヲ帯フルナク又容易ニ侮慢ノ
言ヲ出サシムルナリ是ヲ以テ考フレハ有司ノ心ト蚤凡果
シテ内ニ是ニシテ外ニ非ナリトナスニハアラサル可シ
唯其之ヲ為ス所以ノモノハ一ニ内ニ向テ威赫ノ手段ヲ
施スニ過サルナリ否サレハ何ソ其内外人ノ別ヲ以テ之
ヲ處スルニ如是ノ異同アルヘケンヤ唯人心ヲ威赫シ今
日ノ人民ヲ驅テ卑屈無氣ノ民ノ如クナシ以テ其專恣ノ

詔ヲ呈フセシト欲スルカ爲ノ故ニハ其情勢ノ此ニ至リ
タル何ソ怪ムニ足ラシヤ蓋シ是レヲ爲メニ非サレハ其
目的ヲ遂クルトナケレハナリ是ヲ以テ社會ノ禍害ヲ防
キ人心ノ危険ヲ衛ラントスルノ聖旨ニ背キ翻テ人民ヲ
シテ危険ノ思ヲ加ヘ畏懼ノ念ヲ長セシムルノ結果ニ隔
ラントスルニ至レリ是レ当路有司カ我警保ノ上ニ於テ

威赫籠絡ノ手段ヲ見ル所ナリ
國家陸海ノ軍制ヲ擴張シ平時嚴戒ニ怠ラサル所以ノモ
ノハ國ヲ保テ民ヲ安シテ社稷ヲ全フセシト欲スルニ在
リト云フノミ今ヤ我國ノ兵備ノ制ニ於テ何人ト雖氏其
陸軍ヲ擴張シヨリハ寧ロ海軍ヲ張ラシメテ言ハサルハ
ナレ我國ノ地勢タル四圍沿海ニシテ殊ニ十九世紀氣運

ノ趣ク処東洋樞要ノ地ニ居ラサルヲ得サル其理明ラカ
ナリ然ルニ今日ノ軍制ハ寧ロ陸軍ニ在リテ海
軍ハ未タ全ク之ヲ備フルモノアラサルカ如シ而シテ陸
軍制ヲ觀レハ彼ノ兵制至強ナル政米ノ諸國ト抗衡シ其
能ク國權ヲ維持シ民權ヲ保安スルニ於テ余裕アリトシ
テ安ニスルニ足レリトスル手未タ必ラスシテ辟國ト對
立スルニ余裕アリト云フヲ得サルヘシ蓋シ余裕アリ
ト云フヲ得サルノミナラス外敵ヲ防キ外難ヲ排シ社
稷ヲ泰山ノ安キニ置クニ足ラスト云フハ其耕サス而
シテ食ヒ織ラス而シテ衣ズル數万ノ兵卒ハ何ヲ以テ之
ヲ養フ手莫之ニ不仁ノ蓋ヲ授ケ之ヲシテ不仁ノ事ヲ行
ハシメント之カ被服ヲ裝飾シ之ニ向テテ千万ノ資ヲ擲

ソ所以ノモノハ特リ何ノ目的アリテ然ル乎是レ蓋シ外
ニ向テ其侮ヲ禦キ其衝ヲ抗ラレザルノ用ニア
ラスヤ然ルニ之ヲ以テ徒ラニ内ニ向テ用エル知アルア
レハ其用捨ノ舛誤モ亦タ大ナリト云フヘシ夫禍乱ノ興
ル之ヲ干戈ニ訴フルハ縱令大小ノ別輕重ノ差アルモ其
兵ヲ用エルニ至テハ豫メ期スヘカラズ然レ共内乱ノ如
キ其兵ヲ用エルノ名アルモ實ニ兵ト稱スヘキモノニア
ラス外患ハ則チ起ラス若レ一朝風雲地ヲ捲キ激浪天ヲ
標ルルアラハ一國ノ浮沈坎時ヲ捨テ外ニ宜シク之
ニ對スル節制ノ兵嚴肅ノ備ヲ以テセシムハアラズ若
但兵ノ内乱ニ供スル目的トセハ是兵十キナリ今ヤ当路
有司カ之ヲ爲シテ顧サレ所以ノモノハ知ルヘキノ蓋

三内ニ向テ威赫ノ政ヲ行ヒ專恣ノ怒ヲ逞フシ不義ノ
仇牙ヲ張ルノ手段トナスニ過キサルノミ其精銳ノ武器
ヲ見其義麗ノ服其莊大ノ陣營ヲ觀ル毎ニ人民ヲ威赫シ
彼ヲシテ驚嘆セシメントスルモノナリ況ニ彼ノ智見
未タ發達セズ勇氣未タ發達セサル封建ノ遺臣ニシテ將
ニ仰ヒテ而シテ之ヲ愴然トシテ自ラ失セシメントス
於是乎遂ニ政府ヲ以テ企テ及フヘカラサルモノトナシ
有司如何ニ不正ノ所業ヲ極メ其專恣ノ怒ヲ擅ニシ慘毒
云フヘカラサルノ境ニ陥ルモ人民ハ只ク惶々トシテ有
司ノ威怒ニ觸レサランナリ是レ恐レ寂トシテ声ナキニ
至リテ止ム是レ能ク其手段ヲ逞フニ得タリト云フヘシ
嗚呼有司ノ心是ニ在リテ存スルハ未タ初メヨリ外ニ

向フテ侮ヲ禦キ衝ヲ折リ以テ一國ノ大権ヲ張り陛下ノ
威武ヲ耀サントスルノ意アラサルヲ以テ歐米至強ノ
群國ト相對シ國ヲ守リ民ヲ護リ能ク社稷ヲ全セント欲
スル乎常ニ全國ノ人民ヲ奉ケテ有司皆十兵ト為ストヲ
得ルノ制ヲ急ラス平時其勇悍ノ氣ニ敵愾ノ氣ヲ
培養セシムヘシ其術タル他ニアラズ常備ノ兵ノ如キ其
多キヲ要セスシテ稍ヤ國用ヲ省クヘシ一國ノ人民勇悍
敵愾常ニ武ニ慣レ兵ニ習ハラシムル方法ヲ設ケテ是ヲ
誘導セハ其事アルニ任シテヤ一朝天下ノ精銳ヲ奉ケテ
以テ兵トスヘシ是レ歐米諸國ノ常ニ大軍ヲ使ヒ兵ヲ
用ヒテ至強ヲ逞フスル所以ナリ否ラサレハ僅々六万人
ノ常備兵ノミヲ以テ變レテ歐米至強ノ群國ト對立シ外

敵ヲ防キ外権ヲ排シ日本ノ社稷ヲ安シスルニ足ラサル
ヤ明カナルヘシ故ニ非常兵ノ制ヲ設ケテ常備ノ兵ヲ減
シ茲ニ減スル処ノ有テテ海軍ノ費ニ充ツヘシ今日
ノ有司ト雖モ獨リ之ヲ知ラサシヤ然而シテ之ヲ為サ
ル所以ノモノハ徒ラニ外ニ何テ威嚇ノ政ヲ行ヒ集權
ノ基ヲ固フニ專恣ノ怨ヲ逞フセント欲スルニアレハ民
間一般ノ氣力ヲ養成スルカ如キハ甚々欲セサル処ナ
ルニ是ヲ以テ彼ノ歐米ノ群國カ至強ヲ天下ニ恣ニ一
世ヲ雄視スル非常兵ノ良制モ今日遂ニ之ヲ我國ニ行フ
能ハサル所以ノ者ナリ豈ニ惜カラスヤ是レ當路有司カ
國泰兵制上ニ於テ威嚇籠絡ノ手段ヲ行フヲ見ルト云フ
所以ナリ

夫レ我國兵備ノ向フ処也。如斯外交政略ノ取着スル処
知ルヘキノ一國ト云ヒハト云ヒ苛^ク強^ク立^テノ名ヲ有スル
中ハ亦夕^ク其實ヲ表セサルハカラズ余ヤ我目ヲ國ヲ立テ
目ヲ民ヲ隸ス苟モ独立國ノ名ヲ有スルアレハ独立ノ実
ヲ表セサルモノアラシヤ夫レ人ノ道ヲ行フテ之ニ違フ
モノアレハ宜シク正理ヲ以テ之ヲ争フヘシ争フヲ得サ
レハ死ヲ以テ道ヲ守ルヘシ國モ亦夕然リ道ヲ行フテ之
ニ違ヒ礼ニ因テ之ニ戾ルモノアレハ豈ニ死ヲ以テ社稷
ヲ守ラサルヘシヤ正理ノ至ル処辞ノ尽クル処ハ武力
之ニ継キ死ヲ以テ之ヲ守ルハ國ト云ヒ人ト云ヒ何ノ別
アリヤ彼ノ日耳義瑞西ノ如キハ歐洲中ノ強國ニ外立
ニ最ル夕此一小邦ニシテ能ク其國ヲ立フル所以ノモノ

ハ他トシ唯夕國ノ國タル義道ノ犯スヘカラサルノ理ヲ
主持スレハ十^ニ若シ此小邦ヲシテ強國ニ誦諛シ其一時
ノ便宜ニ拘泥シテ百年ノ大計ヲ慮ラズ道義ニ拠リテ以
テ社稷ヲ保ツテ忘ルレハ其強國カ之ヲ吞食スル瞬息
ノ間ヲ出ラサルナリ我外交ノ一ノ如キハ果シテ能ク独
立ノ体面ヲ外國ニ表スルニ足ル事常ニ外國ノ鼻息ヲ窺
ヒ其喜怒ヲ占フノ举措ヲ以テ其当ヲ得ルトナスハ痛嘆
ニ耐ヘザルナリ彼ノ有司カ忌憚スル十九世紀ノ氣運ニ
對シタル法法ノ如キモノ之ヲ外國ニ向テ拒ムト能ハ
スシテ稍ヤ其文明ノ表姿ヲ模擬スルアルモノハ顧ミレ
ハ氏權ノ暢達セシテ懼レ遠巡ト爲サズ処ニ迷フカ
如シ其醜体ヲ見ルニ至リテハ又微笑ニ堪ヘサルナリ遂

ニ大体ノアル知ヲ願ヒシ可能ハス漫然國權ヲ汚辱シ邦
家ヲ蹂躪セラル、モ耻トセズ詞ヲ謀テ之ヲ陰蔽シ外ニ
向フテ卑辞佞言阿諛迎合口之レカトノ丹ニ向フテ抗言
厲色強壓暴戾ヲ示ス是ヲ以テ之ヲ見レハ今日ノ外交ハ
實ニ言ニ悉ヒサルモノアリト云ハサルヲ得サルナリ蓋
シ我國ノ有司モ其心美ニ安セサルモノアルヘシト虽モ
之カ大体ヲ持シ國權ヲ張ル能ハサル所以ノモノハ蓋シ
天下ニ向テ一人ノ私ヲサレ一人ノ譽ヲサシト欲ス
ルニ外ナラサレハナリ其陰蔽ヲ敢テ自ラ之ヲ他人ニ看
破セラレシニテ防キ常ニ内ニ願ミテ外ニ向フテ能ハス
故ニ天下ノ人民ヲ以テ威嚇籠絡ノ範圍中ニ入レシト欲
シ一事端ノ外國ニ向テ啓ケシトスルアリ道ニ已レ

カ地位ニ危隙ヲ欲セシヲ恐シ因循偷安以テ專ラ緘緘
ノ計畫ヲ為スニ至レリ嗚呼今日我國民ノ有司ニ對シ政
策方向ヲ異ニシ不ノ心ヲ抱リモ一朝外難ノ至ルニ遇
ヘシ誰カ其鬪鬪ノ意ヲ轉シ拒侮ノ氣ヲ攘ハサランヤ苟
モ勇見リルモノ一國ノ大難ニ當リテ豈ニ一身ノ利害ヲ
顧シ自ラ圖ルモノアランヤ有司ハ猶ホ耳ヲ之ヲ情忌シ
テ之カ心ヲ推スヲ能ハス毎ニ已レカ心ヲ以テ人ヲ疑フ
ニ至ルナリ是レ不威嚇籠絡ノ手段之レ類ルカ故ニ是
ヲ以テ我國ノ外交政畧ハ萎靡衰弱殆ント猶三ノ体面ヲ
失フニ至ラントス末季綱白ク有可戰之心而和可全ト今
ヤ有司道義ヲ存スル処社稷ヲ以テ憂シル心ナリ是
レ遂ニ陛下ヲ悞リ人民ヲ欺キ併セテ國權ヲ汚辱セシ

ル所以ナリ是レ当路有司カ十九世純ノ気運ニ拘攷シ以テ
テ自ラ威嚇籠絡ノ政策ヲ取ルカ故ニ我外交ノ政策ヲ己
テ今日ノ極ニ至ラシメタル所以ナリ

柳モ新貴族トシテ我固固有ノ陋習ヲ門閥改詔ノ風ヲ一洗
大義事トシテ我固固有ノ陋習ヲ門閥改詔ノ風ヲ一洗
シ之ヲ撲滅シ得ルモノオシテ死灰又々今日ニ再燃ス
ルニ至リ大ニ維新改革ノ鴻圖ヲ空フスルニ至ラトス
ト云フ下ハ前ニ臣カ爵位ヲ辞スルノ旨ニ諭テ已ニ之ヲ
上陳シケルヲ以テ今復シ之ヲ茲ニ并晰セスト虽也
撲滅シ得ル死灰ヲシテ再ヒ燃ヘシメトスルニ至ル
ハ実ニ可惜ノ至リナリト言フ而シテ新ニ侯伯ノ爵
ヲ虚リ顯榮ノ位ヲ興フルヤ其名タル王室ニ藩籬ヲテシ

ノ勲績ヲ賞録スルト虽モ其實天下稍ヤ存望アルモ
シテ一ニ籠絡シテ以テ專制ノ運命ヲ長テセント欲ス是
レ陛下ノ恩威ヲ借リ以テ他人ノ臣ヲ威嚇シテ專恣ノ態
ヲ久シキニ持セント企フルニ外ナラサルナリ支レ王室
ニ藩籬エト云フ其藩籬タルヲ得ルノ権カナナルヘカ
ラス巴ニ藩籬タルヲ得ルノ権カアル若シ一朝之ヲ濫ニ
スルモノアレハ即チ王家ニ奸犯シ陛下ヲ蔑如スルノ權
セトナルニ至ルヘシ彼ノ藥石ノ用ヲ見ムヤ病ニ的切ナ
ル効アルモノハ又々健全ヲ損フノ害アリ昔日藤家ノ相
位ヲ傳へ原平ニ氏ヲ將門ヲ專ラシムルト相異ナルナリ
ラシヤ若シ王家ニ奸犯シ王位ヲ蔑如スル如キノ権カナ
シトスルナリ是レ空爵ノ虚位ノ何リ其王室ニ藩籬ヲ

ルカ爲ノニ空齋虚位ナル小敷ノモリヲ以テ考數ノ人民
ニ対スルノ理アラフニヤ是レ臣カ街ノ有司威嚇籠絡ノ
手段ヲ長ムルト云フ所以リ我國上古ノ制ヲ考フルニ
自ラ門閥制度ノ確定セシ如キ陋習ナリ所謂一王ノ下ハ
是レ麻生ノ棲息スル所ナリ王家ト衆家トハ何リ其中間
ニ於テ門閥者流ノ梗塞ヲ要センヤ唯帝王ハ至親愛ノモ
トトセシニ彼ノ中間ニ於テ君ニ非ラズ民ニ非ラザルノ
一種族ヲ作爲セハ君民ノ間ニ外立ンテ上下ノ意思ヲ通
暢スルヲ途ヲ隔離スルニ至ルヲ知ルハ是レ当路ノ有
司カ今日公侯伯子男ト云フ貴族ト等ノ制ニ於テ威嚇籠
絡ノ手段ヲ見ル所ナリ嗚呼今日我國有司ヲシテ如此リ
卑劣手段ヲ公行セシムル所以モノハ是レ亦言論集會

ノ自由ヲシテシムルカ有司ト爲レ之レ是レヲ顧ミテ又將
ニ今日ノ如キノ甚ニキニ至ラサルヘシ只夫レ顧ミテ而
テ慮ル所ナシ改ニ終ニ至ラサル所ナリ今日ノ举措アラ
エハルニ至レルノハ夫レ國家ニ言論集會ノ自由アルハ
猶ホ一身ニ耳目アリ鼻口アルト同一ナリ今人アリテ老
線ノ目ヲ射ルヲ厭ヒ声音ノ耳ニ響リテ嫌ヒ目ヲ閉チ耳
ヲ塞キ鼻口ヲ掩フテ以テ安息ナランヲ望ムト云ヒハ誰
レカ其愚ヲ笑ハサルモノアラシヤ而シテ若シ目ヲ射ル
ヲ厭フテ老線ヲ滅シ耳ニ響クヲ嫌フテ声音ヲ断ツト云
ハ誰カ之ヲ能クスルモノアラシヤ今ヤ我有司カ國家
ニ言論集會ノ自由ヲ断スル所以ニモ始ント是レニ向
シテ我輩有司カ言論集會ノ自由ヲ國家ニ禁ズルヤ一人

ノ私ヲナシ一國ニ非ヲ遂ケルハ必ス國民ガ其政法ヲ
議シ有司ノ言行ヲ論スルモノアツテ也レカ私ヲ爲シ已
レカ非ヲ遂クルニ妨ケアルカ爲ナリ其私ヲ行ヒ非ヲ
遂クカ爲ソニ言論集會ヲ禁スト云ハ其暴戾ナルハ固
ヨリナシ共若シ有司ニ於テ強テ之ヲ行フテ憚ラサラシ
ノハ是レ其ノ言論ヲ禁シ集會ヲ禁シタルノ日ハ怡モ其
目ヲ閉チ耳ヲ塞キ鼻ヲ掩ヒタルノ一般ノ時ニシテ其
徒局自ラ聰明ナラシムルモ何ヲ其レ得一ケニヤ是
ヲ以テ今日有司カ爲ス知ルモノヲ以テ之ヲ視レハ其如
何ヲ問フニ及ハス聊カ耳ヲ具シタルノ人類ヲシテ之
ヲ視聽セシムレハ殆ト盲人ノ争鬪ヲ視聾者ノ口論ヲ
聽クト一般ナルモノナリ耳ヲ人ノ生ノ天賦ニ於ケル甚ク

明智ノ人ハ固田其人一人ヲシテ百般ノ事ヲ大成セシム
ヲ得キモノニアラルナリ況ニヤ國家万機ノ事務ヲ司
ル有司ノ如キモノハ必ラム一世ノ公論ニ鑑ミ一代ノ評
説ヲ顧ミ暢若トシテ之ヲ爲スニ非サレハ能リ其政治ノ
尚フ得ヘキモノニ非ラズ固然其人ノ私ヲ爲シ天下ノ
非ヲ遂ケント欲シ威嚇籠絡ノ政策ヲ行ヒ欲シ言論集會
ノ自由ヲ与フルヲ得ス威嚇籠絡ノ政策ヲ行フテ底止
スル処ナシ故ニ言論集會ノ自由ヲ禁ズ其言論集會ノ自
由ヲ禁ズんニ及勤力ハ一日ヨリ甚シキモ遂ニ是レ自
ラ悟ル能ハス其澤措陰ニ艾当ヲ失フタリト知ル 仍ホ
暴慢不義ヲ行フテヒマス嗚呼聞クテ厭フテ自ラ耳ヲ塞
キ見ヲ燻フテ目ヲ閉ワル久即チ自ラ招ラ音聾ノ笑ヲ賣

スト虽氏猶ホ可ナリ別クテ厭フカ故ニ声ヲ断チ見ルヲ以テ
嫌フカ故ニ先ヲ戒セリト云フ至リテハ当路有司
カ威嚇籠絡ノ手段モ其陋愚示夕甚シト云フ所以ナリ
十九世紀ノ気運ナル潮流大気ヲ所過セリト云フ而シテ日
新事物ノ進入ニ日新思想ノ發達スルヲ沮礙セリトスル
ヤ即チ籠絡威嚇ノ政策ヲ施サ、ルノ止ムヲ得サルニ至
レリ於是乎頑固ニシテ革新ノ盛徳ヲ嫌疑スルノ徒ニ對
スルモ利ヲ囑ハシ私恩ヲ賣リカメテ改進ノ
ニトシ或ハ人ノ為ニ官職ヲ造リ
遂ケレトシ或ハ字ニ干渉シテ日新思想ノ發達
トシ尚ホ細羅ヲ洒洩スルヲ恐レ鉤距勿索ニテ農工
商

絡ノ手段ヲ吞レ歎心ヲ購フテ以テ其自安ノ目的ヲ達セ
ントスルモ尚ホ汲々トシテ及ハサルヲ憂フルカ如シ籠
絡ノ手段如此ニシテ之ニ加フルニ猶ホ威嚇ノ手段ヲ
用ヒ或ハ保ヲ利用シテ威嚇ヲ極メ或ハ軍備ヲ利用シ
テ威嚇ノ具ニ供シ或ハ外交ヲ隱蔽シテ其威嚇ヲ損セシ
トテ防ヤ或ハ五等ノ爵位ヲ設ケテ威嚇籠絡ノ譴ヲ塞カ
ントスル等一ニ言論集會ノ自由ナキヲ以テ以上ノ政策
ヲシテ至ラサル処ナキノ積弊ニ隔ラレノタリ然リ而シ
以上ノ下ヲ為スヤ一トシテ財力ニ之レ依ラサルヲ得サ
ルヲ以テ今日冗費ノ繁多ナル又夕寔ニ甚シト云フヘシ
是ヲ以テ朝稅方ヲ布キ夕ヘニ收斂ノ策ヲ
ノ貸財ハ洗フカ如ク民ノ未貧ナル其慘毒又夕若状ス

一カラス夫レ如此政府カ民間ノ財カヲ剝奪スル也或ハ
ト云ヒ或ハ物品税ト云ヒ或ハ所得税ト云ヒ或ハ公
債ト云ヒ義捐ト云ヒ其名ト異ニシテ其途一ナラスト云
モ而モ其之カ徴収ニ應シテ其財貨ヲ出ス処ノモノハ一
ニ是レ皆ク人民ナリ其壓搾是レ尽キテ糟糠モ余サハル
ニ至ルモ亦タ宜ナラスヤ況ンヤ我國紙幣ノ増減ヲ慮
ナラシメシヨリ物價ノ高低ノ非常ノ変動ヲ生シ為ニ其
財産ヲ損耗スルモノナラサルヲヤ其農家高估ノ艱難
ハ又夕冥ニ見ルニ忍ビサルモナリ是ヲ以テ地方ノ衰
頹ハ日ニ月ニ加ハリ罪内ハ固固ニ充填シ其數強ニト常
備兵員ニ倍シ良民离散シテハ荒村破藪到處ニ多ク満日
唯夕荒涼ノ色アリテ遂ニ洋々ノ声ヲ聞カス於是乎全村

相リテ納税ヲ拒ムモノアリ一郡相並ニテ公賣ニ附セ
ラレントスルアリ催租令嚴ニシテ吏胥督責相嗣ク只夕
中央ノ府庫ニ充實センナリノ是レカノ呵責鞭笞誠ニ
至ラサルナク人民ハ其稅吏ヲ視ル虎豹ノ如ク警官ヲ見
ル夜叉ノ如ク咨嗟怨嘆ニ至リ炊キ蠟ヲ薪ニシテ襦袢停
皇蛇ヲ捕ヘ虎ヲ搏ツノ危キモ良食ノ為ニハ冒シテ避ケ
サルカ如シ中央集權ノ
休養也
ル処ナシト云フヘシ有曰ト云モ是ヲ以テ國庫ノ富饒
ヲ永久セシムルノ得策ナリト為ス能ハザリシ臣八年ニ
職ヲ退キ十年國ニ返リ十三年又京ニ上リ以テ往還三四
回今日輦轂ノ下ニ來レハ都門ノ景象唯夕退歩ノ觀ヲ表
シテ高勢ノ不振ヲ感スルノ外ナシ特リ有司カ被服

ノ華羨ナル茅宅器飾ノ壯麗ナル蹈舞夜宴ノ盛ニ行ハ
ル、其驕奢淫逸ハ突ニ陛下ノ供御ヲ減シ外ヲ節シ儉
素以テ人民ヲ師ユルノ聖旨ニ違フモノアリ矣ニ臣カ心
目ヲシテ驚愕セシムルノミナラス之ヲ以テ今日地方ノ
衰人民困迫ノ實況ニ比スレハ殆ント天地ヲ別ニシテ
人類ヲ異ニシタルノ觀想ヲ生セサルヲ得サルノ是
モ亦夕威嚇籠絡政策ノ一端ニシテ敢テ深ク異ムニ足ラ
スト至モ人民等若シ有司今日驕奢ノ現状地方目下衰
耗ノ源ナリトシ相率テ嘯集シ以テ積怒深怨ニ夜宴偷逸
ノ中ニシテトスレハ果シテ如何セントスルヤ夫レ如
此ノ下波シラ容易ニ止レナシト云フヲ得サルナリ夫ノ
幕府ノ末路王政ノ初年ニ當リ一國時勢ノ衰ニ
其京師ニ

上リテ天子ノ驕小ヲ觀江都ニ下リテ將軍
蒞大ヲ望ム毎ニ未夕東下王室ノ式微ヲ傷、幕府ノ衰奢
ヲ悲憤シ愴然トシテ王室ヲ尊ヒ霸府ヲ卑クノ心ヲ
セサルハナシ是レ陛下今日ノ有司モ亦夕當御親ニク其
悲憤ヲ同フセシモノナリ夫レ必ラムヤシラシカ
ル処ナルヘニ維新ト今日ト世時ヲ別ニスルモ甚敏ニ
処ニ至リテハ一ナリ且ツ如此物情愴然ツ秋ニ當リテハ
用ニヘキ才能ナリ推シテハキノ徳量ナキモノモ其志ヲ違
フシテ勝塵ノ教訓ヲ遂クルヲ容易ナルヲ得ヤモ
ルモノナリ若シ在相嘯集シテ揚竿而起ラハ有司ハ夫
レ何ヲ以テ之レニ処セントスルカ或ハ云ハニ百ノ警
吏モ此時アルカ為ノハ六カノ兵率モ亦リ此時ヲ待ツカ

為ノ、彼ノ賤民等漫ニ灌地ノ中ニ兵ヲ弄スルカ如ナル
赤手ニモテ之ヲ捕ヘミトスルニ、全クアハレシ支レ精銳
ノ兵訓練ノ年ヲ以テ竹櫃水棍烏合ノ衆ニ臨シ其之ヲ破
ルノ容易ナルハ石ヲ以テ卵ニスルニ譬ナラサルモノ
アルヘシ然ルニ之ヲ破ル一日ニシテ凱施
シテ而シテ審察スレハ兄ハ弟ヲ殺シ子ハ父ヲ傷テ其敵
トシテ共ニ戰フ知ノモノハ一家同飽ニシテ其受リル
ノ勲章賞牌ハ又テ傷ケ弟ヲ殺ケタルノ報酬ナリト
ニ至レハ慨然トシテ悲ニ歎然トシテ悲ニ歎然トシテ而
テ快リ翻然トシテ而シテスルヲ至ルヘシ天ニ
大敬其敏スル所ヲ推測ス未夕之レ無シト云フヲ得ナル
ナリ夫レ衆怒ヲ徒ニ民怒ヲ府メテ恬然トシテ自ラ安シ

スルカ如キ。筆竄突テ愚ナルノミナラズ一朝禍乱謹テ
施ラサハルニ至ラハ、司ハ果シテ能ク身ヲ投テ避ケ
サレモ何レ術ヲ講ニテ之ヲ過ルルヲ期スルアリ朝衣
堅市ノ事アルモ怖レスト云フハ未夕信スルヲ誤サレテ
リ殊ニ当路有司其責任ヲ避ルルニ則チ總理大臣官内ノ
長官ヲ兼子内ニハ陛下ノ威福ヲ藉テ以テ中外ニ号令ス
ルモノ徒ラニ專恣ノ欲ヲ遂ケ一人ノ私ヲナサント欲ス
他日若シ民衆怒リ至ルマテハ是ヲ陛下ニ嫁シテ已レ
自ラ其危難ヲ避クルノ地ヲ作為ス幸ニ陛下ノ威徳祖宗
列聖ノ全澤ヲ以テ叛乱ノ徒其跡ヲ絶テ天下ノ衆庶ハ其
忠孝ヲ移シテ之レヲ有司ノ身ニ府スルモノ地ナシ我民
忠孝ヲ教其極難スル久シクヲ以テ未夕真ニ逆意ヲ王家

二懐シモノアラズ唯親愛ハ首ヲ疾ニシテ有司カ陛下ヲ
恩渥ニ狎シ至誠至忠ノ妻情ナキヲ憎ムサルナリ嗚呼名
ケテ責任宰相ト云ヒ舞シテ總理大臣ト稱云而シテ陛下
ヲ以テ孤注トナシテ声利ヲ天下ニ博セシトス勤ハ其敗
ノ局ヲ以テ之ヲ陛下ニ假托スルアラハ其不忠不義萬世
ニ至テ誰レカ之レニ比スヘキアラシヤ夫レ威嚇籠絡ノ
改策ヲ以テ假令之レカ目的ヲ達シ得ルモ猶ホ人飢餓ニ甚
シテ其身ノ肉ヲ喰フテ腹ニ充ルカ如ク其腹僅ニ飽リト
虽モ身体嗣ヲ驚ルモ如ク強ク用ヒテ強ク激怒スヘシ
故ニ多路有司カ威嚇籠絡ノ余リ凶國ニアラサレハ擾乱ナ
ナリト云フ所以ナリ
以上十條多路有司ノ為ス所一ニ唯民財ヲ耗竭シ民智ヲ

消殺シ元氣節概ヲ掃蕩セシトスルノ政業ニアラサレハ
ナシ柳モ人民ハ一國邊大奉ナリ故ニ人民富強ナレハ一
國亦富強ナリ其權利ノ發達モ亦強壯ナラサルナリ其民
権強壯ニシテ一國ノ権亦強壯ナリ未タ其民権發達ニ
テ國権ハ強壯ナレバ所謂政ナキモノハ其民ヲ
ナリスルナリ民ヲナリスレハ
其民ヲテシテ欲スルヲ如此クニシテ其國
ト云フ又難シト云フヘシ
山河形勝沃野膏田天府ノ邦國タルモ復タ万ニ之
ヲ如何セシトスルヤ文ハ民財民智ヲ溝竭シ天氣節我ヲ
掃蕩シテ民権民利ヲ挫折スルノ余リ我國威ヲ外ニ失ヒ
常ニ外國ノ梟息ヲ窺ヒ其輕侮ヲ受ケテ之レカ辱ヲ雪ク

能ハス愛喜ヲ
テ進退ヲ為サ、ルヲ得サルニ至ルハ
此我ヲ捨テ一彼ニ求ムル 外人ガ此ヲ憚リニ母改
ニ略ヲ容レシノ我法律ヲ左右スルハ甚シキニ至シハ一
國ノ亡域ハ言ヲ待タサルナリ而シテ彼主約改心ノ議ヲ
シテ再ヒ之ヲ継カシメハ彼ノ外人力漸次我内改ニ推入
ニ傾ニ其無限ノ資金ヲ 輸シテ山河ヲ席卷ニ来ラシ
メ洧クキクル其弊江河ヲ決スルカ如ク果シテ能ク何ヲ
恃ニテ以テ守トスルニ是ルキ災ニ豺狼ヲ群ニ入ルハ
毛膏ヲラサレヘレ臣臆フテ此ニ至ルハ痛哭流涕長大息
ノ至リニ堪ヘサルナリ今日朝政ノ敗向スル所ヲ以テ考
フシハ一國ノ煩類ニ止知又言フニ忍ビサルナリ國民ヲ
果シテ元氣ナキ事有司ヲシテ政策ノ目的ヲ遂ケシメハ

統局外冠ヲ以テ一國ヲ概ニスルナリ國民元氣アル事有
ラシテ改革ノ目的ヲ遂ルルヲ得サラシメハ其統局ノ内
乱革命ノ乱ナリニツク者孰シカ未ク知ルヘカラサルモ
且暮ニシテ時ノ一カラサルカ如シ臣陛下ヲシテ之レカ
慘毒ヲ見セシムルニ忍ヒス斧鉞ヲ忌レテ之レヲ尽言シ
テ忌憚セサル所以ナリ昔時ハ先帝國政ノ陵夷ヲ憂ヒ武
臣ノ專横ナリテ憤リ勵精シテ之レカ回復ヲ期シ玉フモ
不幸ニシテ怨イテ中道ニ吞ニテ崩殂セリ是天下正義ノ
志士ノ痛嘆スル所ニシテ維新ノ鴻業ヲ翼賛シテ中興ノ
氣運ヲ連ニシタル所以ナリ仰キ願フハ陛下先帝ノ遺意
ヲ志シス能ク維新ヲ和ノ聖意ニ背カヌ聖誓聖詔ノ旨ヲ
明カニシ早ク國約ノ憲法ヲ頒シ天下ノ正義ヲ容レ 論

ノアル但ヲ採テ連ニ苛税ヲ撤シテ人民ノ
 任内罔ノ実ヲ表シテ衆怒ヲ排シ民怒ヲ除カハ内乱夫
 クヘク而シテ上下意ヲ同シ君臣カヲ戮スルヲ得ハ外
 冠又々書フルニ皇ラス國家而世ノ大計此ニ至ツテ始メ
 整理スルノ期アルヘキナリ若シ然ラズ後ニ与日朝政
 物推スル所ヲ得テ競然トシテ改コル知ナケレハ國報
 傾頹スル所アリト虽氏之レカ後ヲ善クムル不能
 サルニ至ルヘシ天下ノ事ハ臣復ク何
 フカ言ハシ伏テ願クハ陛下左右ノ言ニ惑フナク臣カ
 臣退助泣血昧死

明治廿年八月十二日

